

秋篠宮 皇嗣殿下 おことば



本日、「税関発足150周年記念式典」が開催され、この場にお集まりの皆様、また、画面を通して、全国9つの税関で職務に精励されている皆様とともにお祝いできますことを誠に嬉しく思います。

日本の税関の歴史を振り返りますと、1858年に欧米5ヶ国との修好通商条約が締結され、その翌年に箱館と横浜、そして長崎の港に運上所が置かれたことに始まります。そして150年前の本日、全国に設けられていた運上所が、現在の税関へとその名称が統一されるに至りました。

この時以来、我が国は、諸外国との貿易を通じて産業を盛んにし、国民生活を豊かにするなど、目覚ましい発展を遂げてきました。この間、税関は、関税等の適正な徴収や密輸の厳格な取締り、貿易の円滑化を推進し、人々が安全で安心して暮らせる社会の実現と、貿易を通じた経済発展に大きく貢献してきました。

私は過日、そのような税関の現場を見学する機会を得ました。その際、日々世界中から届く膨大な数の郵便物や船舶によってコンテナで運ばれてくる貨物、そして外国から入国する旅客の手荷物に不正な薬物や知的財産を侵害するようなものが隠されていないかを検査していることなどについて説明を受けました。そして、職員一人一人が真剣に検査をする様子を間近に見、高度な専門知識と経験を活かし、懸命に仕事に励んでおられる姿が強く印象に残りました。皆様が日々士気高く職務を遂行されることによって、人々の安寧な暮らしが築かれていることを再認識した1日であり、そのたゆみない努力に深く敬意を表します。

島国である日本において、水際を守る税関の役割は重要であり続けます。その役割を果たすため、税関は、150年の長きにわたって、社会や経済の変化に的確に対応してきました。これからも、その歴史の上に立ち、新たな取り組みも進めながら、社会的使命を果たしていられることを期待しております。

おわりに、税関が発足してから150年を迎える年にあたり、職員の皆様が、今後とも職務に精励され、国民からの信頼や国内外の期待に引き続き応えていられることを祈念し、本式典に寄せる言葉といたします。



第2章

税関150年のあゆみ